

Nostalgie du Futur Le Japonisme

未来のノスタルジー“ジャポニズム”

ドビュッシー、ラヴェルをはじめとする〈ジャポニズム〉の影響を受けた作曲家たち、
そしてフランス音楽の系譜を色濃く感じさせる武満徹の楽曲を収録したアルバム。
「ジャポニズム」を主題に、フランス音楽、オリエント、
そして東洋と西洋の交錯を内包した、
ピアニスト、福井真菜による珠玉の作品集です。



Nostalgie du Futur Le Japonisme

一時代と文化を超えて交差するー ジャポニズムの過去と未来を繋ぐ三部作

19世紀末のパリ。ジャポニズムに影響されたアール・ヌーヴォーの中、その時代の前衛たちは訪れたことのない東洋を夢らし、未来を想像しながら作品を投げかけました。

100年前に生きた、フランスのアヴァンギャルドたちが夢見た「未来」において、彼らが夢見た東洋の島国、日本で生きる私たちは、「未来」にどのような作品を投げかけ、礎石を残せるのでしょうか。
福井真菜（ピアニスト、本作品キュレーション）



©Leo Kuroyanagi

福井真菜（ピアノ）

桐朋学園大学を卒業後パリ17区音楽院ピアノ科、伴奏科を満場一致の一等賞で卒業したのち、仏クラマル地方音楽院にて室内楽、声楽クラスの指導、シャラントン音楽院にてピアノ科教授として指導にあたる。

フランス政府国家音楽家資格試験、国際フェスティバル等で公式伴奏員を務めつつ、パリを拠点にヨーロッパ各地で演奏活動を行う。2015年に帰国した後、ソロ・室内楽を中心に、舞踊や映像との競演など幅広い活動を行っている。

真嶋雄大 音楽評論

「福井真菜さんの演奏は、オーソドックスにして鮮烈だ。作曲家、作品への真摯な対峙は、背景に潜む成立動機や社会情勢までもを俯瞰しながらの深い探究と重なって比類ない説得力を産み出す。

各曲への深々とした共感と鋭敏な感性は言うに及ばず、自らの閃きを瞬間の確信として綴っていくみずみずしいアプローチは、フレンチ・ピアノリズムの真髄でもある。ひとつひとつの音、その連なりがこれほどの主張を伴って普遍的な説得力を帯びることに驚愕すら覚える。日本人としてアイデンティティをしっかりと確立し、フランスで過ごした経験を糧としているからこそ、「未来のノスタルジー」で提示した3つのコンセプトが圧倒的な説得力をもって迫ってくる。それは日本とフランスとの文化交流の範疇を凌駕し、音楽という世界原語をもって語り得る人類共通の平和への祈りに通じるものだ。」

福井氏の演奏は、空気の震えまで感じさせる繊細なタッチ、余韻までも音楽の一部とするペダルワーク、そして嵐のような力強さをもつ低音表現が特徴です。各楽曲を深く咀嚼し、自身の視点から解釈することで、現代の音楽家としての“ジャポニズム”を新たに提示しています。

シンタックスジャパンでは、演奏会場の空気感までも余すことなく録音に収めた、24bit / 96kHz 以上の真のハイレゾ・コンテンツを提供するため、2013年に音楽レーベル「RME Premium Recordings」を設立しました。このレーベルでは、RME製機器を使用し、演奏者の表現はもちろん、録音空間の響きや余韻に至るまで克明に捉えた作品をお届けしています。

本作においても、その哲学は貫かれており、福井氏の表現を余すことなく捉えた音像が実現されています。



Nostalgie du Futur "Le Japonisme" Mana Fukui



The Orient and Japan



A Collection of little Masterpieces

1



2



3



※QRコード読み取りにより、
本作品の Dolby Atmos 版およびステレオ版を
各種音楽サブスクリプション・サービスより
お楽しみいただけます。